

孤立対策に関する報告と提案

2021年9月2日第6回孤独・孤立に関するフォーラム（北九州市）

NPO法人抱樸

奥田知志

■抱樸の活動

33年

抱樸は1988年から活動を行っています

↑
3,640人

抱樸の居住支援を受けて家に住めるようになった人数

♡
2,000人

現在も継続してサポートしている人数



1,775人

ボランティアとして登録している人数



144,910食

炊き出しで配ったお弁当の数



142,817件

生活困窮者からの相談の数



11件

厚生労働省など省庁の政策立案や審議会に参加した件数



27事業

子どもから大人まで包括的な支援

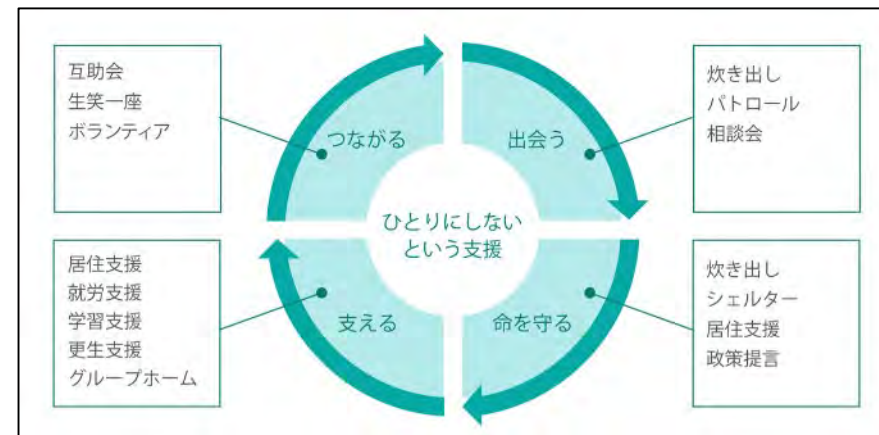
社会に居場所がない。困っているのに、「助けて」と言える誰かがいない。生きること疲れ果て、自分が困っていることにさえ気づけない。— 私たちの周りには、見えるところにも、そして見えないところにも、多くの孤立と困窮の現実があります。

私たちは、誰も取り残されない社会をつくりたい。誰もがありのままの状態を受け入れられる社会をつくりたい。「自己責任」と、家族の役割ばかりが大きくなっていく風潮の中で、何の心配もせずに「助けて」と言える社会をつくりたい。

32年の活動を通して、ホームレスの数は減少しました。

路上で生活する人が減っても、見えない貧困は増えています「ネットカフェ難民」という言葉に象徴されるような、見えづらくなった貧困。そして、本当に困ってしまったときに頼れる他者がいないという社会的な孤立。

貧困、格差、そして孤立はもはや常態化しています。もし、いざと言うときに頼れる人が誰も思い浮かばなかったら、あなたも「家のあるホームレス」かもしれません。私たちはそんな社会をどうしても変えたい。北九州から日本中に、誰も孤立しない社会を広げます。



NPO法人抱樸の活動特徴

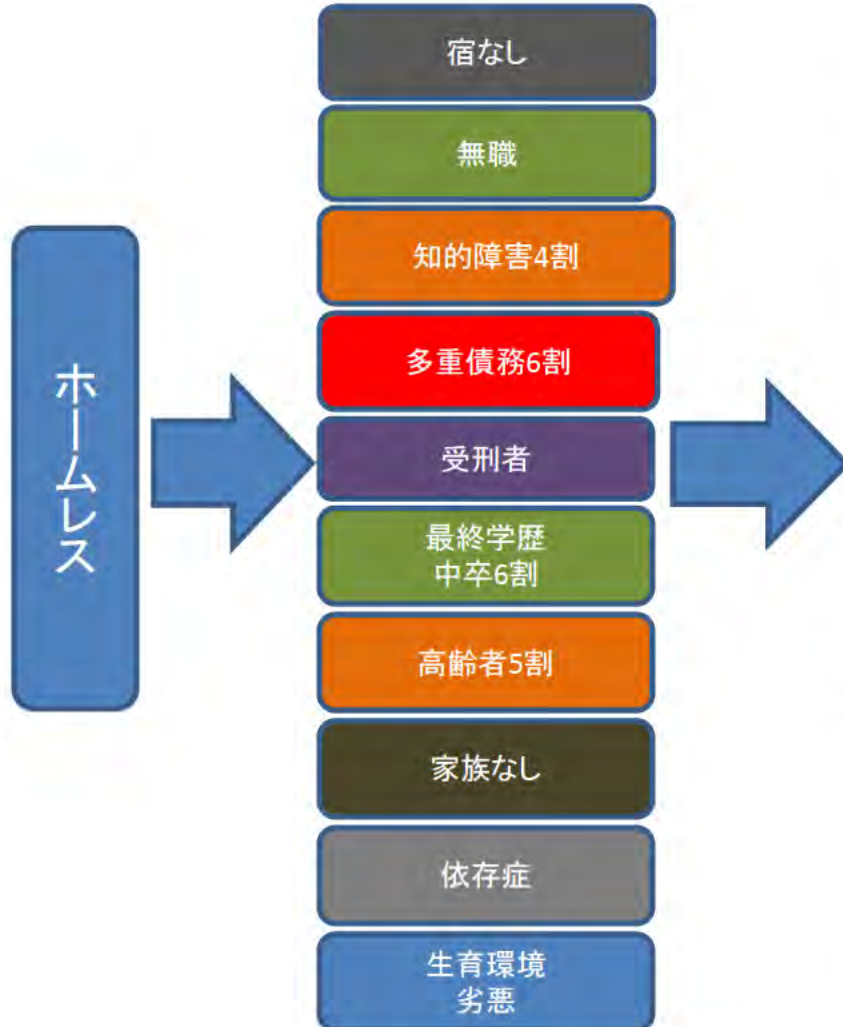
①人を属性で見ない ②一人との出会いから ③断らない

抱樸27事業

自主事業 15事業

制度事業 4事業

委託事業 8事業



	実施事業
自主事業	1 炊き出し委員会
	2 自立支援住宅委員会
	3 サポート委員会
	4 広報委員会
	5 互助会
	6 抱樸館北九州（生活相談・レストラン・配食）
	7 生活サポートセンター小倉
	8 生活サポートセンター八幡
	9 見守り支援付住宅 プラザ抱樸
	10 金銭管理支援事業
	11 居宅設置支援の会 事務局
	12 ホームレス支援法律の会 事務局
	13 地域生活定着支援協議会 事務局
	14 総務部
	15 経理部
制度事業	16 グループホーム抱樸
	17 デイサービスセンター抱樸
	18 多機能型障がい作業所ほうぼく
	19 B型作業所ほうぼく
委託事業	20 巡回相談事業（北九州市）
	21 生活相談事業（北九州市）
	22 日雇い労働者等技能講習事業（厚生労働省）
	23 自立相談・家計・子ども支援事業（中間市）
	24 就労準備支援事業（北九州市）
	25 子ども・家族まるごと支援事業（北九州市）
	26 刑余者・地域生活定着支援センター（福岡県）
	27 再犯防止立ち直りサポートセンター（福岡県）

「……何よりも大切にしていること」
「ひとりにしない」という支援

ホームレス支援から見た二つの困窮

1) 路上で…「畳の上で死にたい」

2) 自立後…「俺の最期は誰が看取ってくれるか」

👉「何が必要か」 住居、保証人、職、健康保険、携帯、弁護士

👉「誰が必要か」 心配してくれる人、一緒にいてくれる人、感謝してくれる人

3) 二つの困窮

👉経済的困窮(ハウスレス)

👉社会的孤立(ホームレス)

※ハウスとホームは違う

4) ホームレス中学生の現実(ホームレス襲撃事件)

👉「家があっても帰るところがない。誰からも心配されていない。俺はホームレスだからその気持ちわかるけどなあ」

👉路上の風景の全国化…「時代が路上に追いついた」

地域共生社会の議論から

(「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ 令和元年 12 月 26 日)

1 地域共生社会の理念とその射程

○日本の社会保障は、他の先進諸国同様に、人生において典型的と考えられるリスクや課題を想定し、その解決を目的として、それぞれ**現金給付**や福祉サービス等を含む**現物給付**を行うという基本的なアプローチの下で、公的な保障の量的な拡大と質的な発展を実現してきた。

日本の社会保障 つながりとケア

➡現金給付と現物給付
➡家族・地域・会社

○その一方で、個人や世帯が抱える**生きづらさやリスクが複雑化・多様化**している。例えば、**社会的孤立など関係性の貧困の社会課題化**、ダブルケアやいわゆる8050問題など複合的な課題や人生を通じて複雑化した課題の顕在化、就職氷河期世代の就職困難など雇用を通じた生活保障の機能低下などの変化が見られている。

➡新しい問題・・・課題の複合化・社会的孤立

➡背景・・・雇用不安定化・家族脆弱・地域崩壊

※社会的孤立の解消＝伴走型支援と**家族機能の社会化**

孤立のリスクとは？

①「自分自身からの疎外」

- ☞「自己認知不全」—孤立は自分の状況把握を困難にする
- ☞他者を通して自分認識が可能になる

②「生きる意欲・働く意欲の低下」

- ☞「何のために働くのか」・・・内発的な動機
- ☞「誰のために働くのか」・・・外発的な動機
- ☞意欲低下は自殺の危険性を高める

③「社会的サポートとつながらない」

- ☞良い制度も、知らない、教えてくれる人がいない、つないでくれる人がいないと存在しないと同じ
- ☞対処が遅れ問題が深刻化—社会保障コスト増大

提案① 孤立防止の人材育成 伴走型支援に関する研修実施

1) 孤立解消のための支援論—伴走型支援

従来の問題解決型支援

☞「自立が孤立で終わる」危険

伴走型支援

☞「つながり続けることを目指す支援論」

抱樸(ほうぼく)☞「ひとりにしない」という支援

※2021年4月厚労省 重層的支援体制整備事業において「解決型」と「伴走型」は支援の両輪と位置付けられた

2) 伴走型支援士養成講座(2010年度より開始)

☞これまでに**1137人以上が受講済み(全国)**

4) 横断的受講者

☞困窮者支援、介護事業、障害福祉、行政関係、法曹、医療、居住支援法人、NPO、地域づくりNPO、家賃債務保障会社、不動産会社、災害復興支援、ホームレス支援、社会福祉協議会、社会福祉士、隣保事業士、社会福祉法人、

5) 推進体制

一般社団法人 日本伴走型支援協会設立

◆認定委員会

委員長

炭谷茂(恩賜財団済生会理事長)

委員

奥田知志(ホームレス支援全国ネットワーク理事長)

委員

新保美香(明治学院大学教授)

委員

杉村宏(北海道大学名誉教授)

委員

中山徹(大阪府立大学名誉教授)

委員

原昌平(読売新聞大阪本社・編集委員)

委員

藤森克彦(日本福祉大学教授)

伴走型支援士(2級)認定証

氏 名 見本 花子

認定番号 2-000000

初回認定日 2012年3月11日

有効期限 2022年3月10日

交付日 2017年3月11日

上記の者を伴走型支援士(2級)として
認定いたします。



特定非営利活動法人
ホームレス支援全国ネットワーク

伴走型支援士資格認定委員会
委員長 炭谷 茂

- ◆本認定証は伴走型支援士であることを証明するものです。
- ◆本認定証の他人への貸与・譲渡はできません。
- ◆本認定証は有効期限を過ぎた場合、無効となります。
- ◆本認定証の表記内容を改変したり不正使用した場合、無効となります。
- ◆認定者の住所変更、氏名変更等につきましては、下記までご連絡ください。
- ◆本認定証を拾得された方は、下記までご連絡ください。

特定非営利活動法人ホームレス支援全国ネットワーク
伴走型支援士資格認定委員会 事務局 TEL: 093-651-7557



伴走型支援

新しい生活と社会のカタチ
奥田知志・原田正樹 編



伴走型支援

新しい支援と社会のカタチ

伴走型支援

新しい支援と社会のカタチ
奥田知志・原田正樹 編



ひきこもり、8050問題、
ゴミ屋敷、生活困窮、
子どもの貧困……

深まる社会的孤立に、つながり続ける支援を！

白曜閣

- 第1部 伴走型支援を導く
- 第1章 伴走型支援の理念と背景(奥田知志)
 - 第2章 なぜ伴走型支援が求められているのか(堀月正)
 - 第3章 伴走型支援の社会と社会的孤立に対する伴走型支援(奥田知志)
- 第2部 人と地域に伴走する支援
- 第4章 伴走型支援と地域づくり——住民とともにつくる伴走型支援(藤田寛子)
 - 第5章 アクト・データと伴走型支援(白曜閣)
 - 第6章 経済的困窮と伴走型支援(奥田知志)
 - 第7章 日本に求められる伴走型支援の展開(奥田知志)
- 第3部 新しい社会を構築する
- 第8章 伴走型支援と生活困窮(奥田知志)
 - 第9章 伴走型支援は本当に有効か(奥田知志)
 - 第10章 伴走型支援がもたらす未来(奥田知志)
 - 終章 あらためて伴走型支援とは何か——後編の巻頭(奥田知志)

奥田知志・原田正樹 編

白曜閣

伴走型支援

2021年9月1日
有斐閣より

伴走型支援—新しい支援と社会のカタチ 出版

2014年4月8日
明石書店

生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート



生活困窮者への 伴走型支援

経済的困窮と社会的孤立に対応する
トータルサポート

奥田知志・堀月正・原田裕介・堀月史郎

提案②サブリース型支援付き住宅モデルの普及

1) 居住の不安定が孤立を招く

2) 家族機能を付加した支援付き住宅

■ 2021年骨太方針

「空き家等を活用した住宅支援の強化等による住まいのセーフティネットの強化を含めその在り方を検討する」

全国で800万戸の空き家が存在する一方で「住宅確保要配慮者」の増加・・・安心して貸せる仕組みが必要

■ 国交省・・・住宅セーフティーネット法改正 ■ 厚労省・・・住居確保給付金・一時生活支援事業・自立生活援助

3) 住宅ストック(空き家)活用型のサブリース型支援付き住宅

☞ 国がコスト負担をし続けることの限界

☞ 住宅コモンズ・社会共通資本の創造

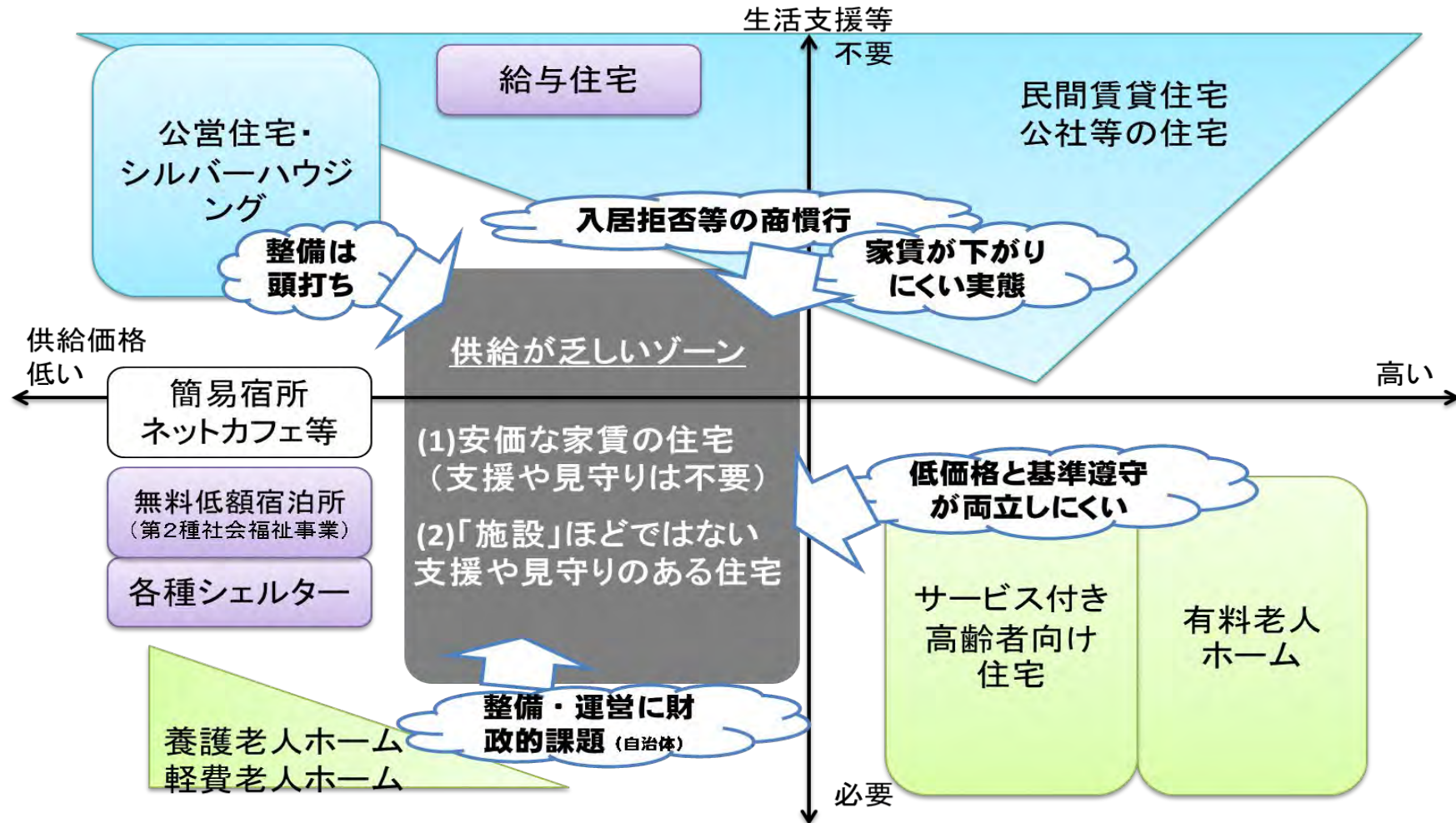
☞ 国はイニシャルコスト(借り上げ資金)のみを支援・・・サステイナブルな事業へ

4) コロナ緊急支援 ☞ クラウドファンディング: 全国10都市(10の居住支援団体)・・・172室確保

☞ 3年間抱樸による見守り指導(村上財団による支援)

居住支援のフィールド・・・廉価と支援付

居住に関する資源を巡る課題



生活支援付住宅(既存・非制度)55室 ごちゃまぜ型支援付き住宅「プラザ抱樸」

◆プラザ抱樸の施設概要

- ①鉄筋コンクリート10階建 耐震、耐火構造建築物
- ②居室面積21.5㎡(6.5坪)、風呂、トイレ、台所、冷暖房付き、
- ③一階 現在のビデオレンタル店(282㎡)を今後改修し、福祉事業を実施。
- ④現在85室借り上げ(一部屋管理人室)

◆支援体制

- ①管理人常駐 1名
- ②24時間相談受付
- ③相談支援員配置 1名
- ④債務保証会社による家賃見守りとオートコール活用

◆支援付き住宅入居費用費用

- ①家賃:29,000円(生活保護基準)
- ②公益費:6,050円(水道料・給湯料・町費)
- ③生活支援費:2,200円
- ④OFI賃貸保証料(継続):350円(初回の1%)
- ⑤その他初期費用
敷金:58,000円(家賃2か月分)
OFI賃貸保証料(初回):35,050円(家賃+公益費)



属性超えた「ごちゃまぜ」型支援付き住宅群

⇒制度と非制度を組み合わせることで「断らない体制」を実現

⇒同一建物内に複数のスタッフが存在・相互に助け合う体制
出会いと出会い

ごちゃまぜ型支援付き住宅

⑦介護事業所
デイサービス・訪問介護
あるいは障害A型

⑥自立援助ホーム

⑤自立準備ホーム

④日常生活支援住居施設

③障害グループホーム

②地域サロン相談窓口

①生活支援付住宅

今後新設部分

既存部分

⑦介護事業所あるいはA型作業所
(今回増設・制度)

デイ・訪問・ヘルパー・ケアマネステーション

⑥自立援助ホーム(制度増設・今後)

6室 地域交流サロン活用
児童養護施設等出身のアフターケア事業

⑤自立準備ホーム(今回増設・制度)

2室 地域交流サロン活用
刑務所出所者(生活支援付き住宅併用)

④日常生活支援住居施設(今回増設・制度)

20室 サロン1か所
常駐2名・宿直1名

③障害グループホーム(既存・制度)

2ユニット(12室) サロン2か所
支援員 5名日中常駐

②地域交流サロン相談窓口(既存・非制度)

1か所設置
地域住民と入居者の交流

①生活支援付住宅(既存・非制度)

55室
管理人常駐 相談支援員一名

プラザ抱樸入居者一覧

(2020年4月現在※網掛けは退去者)

番号	年齢	性別	収入源	属性	障がい	就労	
1	50代	男	就労	生活困窮		一般就労	
2	80代	男	生保	高齢・HL			
3	20代	男	親仕送り・就労	障がい	精神2級	障がい就労	
4	20代	女	生保	障がい・HL	精神2級	一般就労	退去
5	70代	男	生保	障がい・高齢・HL	療育B2		
6	40代	男	生保・年金	障がい	療育B2・精神3級		退去
7	60代	男	年金	高齢・HL			
8	70代	男	生保	高齢・HL			退去
9	40代	男	生保	障がい・HL	療育B2		
10	80代	女	年金・貯蓄	高齢			
11	40代	男	年金・就労	障がい	療育B2	障がい就労	
12	30代	男	年金・就労	障がい・HL	療育B2	障がい就労	
13	40代	男	生保	HL	突発性難聴		
14	70代	男	年金・生保	高齢・HL			
15	60代	女	年金	障がい・高齢	療育B2		
16	40代	女	貯蓄	障がい・DV	精神2級		
17	70代	男	就労・貯蓄	高齢・生活困窮		自営	
18	60代	男	生保・年金	高齢・HL			
19	70代	男	生保・年金	高齢・HL			退去
20	20代	女	生保・就労	障がい	発達障がい	障がい就労	
21	60代	男	生保・年金・就労	障がい・高齢・HL	療育B2	障がい就労	
22	50代	男	生保・就労	障がい・HL	療育B2	障がい就労	
23	20代	女	生保・就労	障がい・HL・母子	療育B2	障がい就労	
24	70代	男	生保	高齢・HL			
25	50代	女	貯蓄	DV			退去

番号	年齢	性別	収入源	属性	障がい	就労
26	70代	男	生保・年金	高齢・HL		
27	40代	男	生保	HL		
28	40代	男	生保	障がい・HL	精神2級	
29	40代	女	就労	生活困窮・DV		一般就労
30	20代	女	就労・生保	生活困窮		一般就労
31	50代	男	就労・年金	障がい・HL	療育B2	一般就労
32	60代	男	生保	高齢・HL		
33	30代	男	生保	HL		
34	20代	女	就労	社会的養護		一般就労
35	50代	男	年金	障がい	身障1級	
36	50代	男	生保・就労	障がい・HL	精神3級	障がい就労
37	70代	男	年金	高齢		
38	50代	男	生保	障がい	身障申請中	
39	70代	男	年金	高齢・HL		
40	50代	男	生保	障がい・HL	療育B2	障がい就労
41	60代	男	年金	障がい・HL	療育B2	
42	60代	男	年金	高齢・HL		
43	50代	男	生保・就労	障がい・HL	療育B2	障がい就労
44	30代	男	生保	障がい	診断中	
45	20代	男	生保・就労	障がい	療育B2	障がい就労
46	10代	女	就労	社会的養護		一般就労
47	70代	男	生保・年金・就労	障がい・高齢・HL	療育B2	障がい就労
48	10代	男	就労	障がい・社会的養護	療育B2	一般就労
49	60代	女	年金	障がい・高齢	精神2級	
50	20代	女	生保	HL		
51	70代	男	生保・年金・就労	障がい・高齢・HL	療育B2・アルコール	障がい就労

サブリースモデル事業持続性について

- ①元々3～3.5万円の家賃物件を2万円でサブリース
- ②抱樸がサブリース契約
- ③収益構造－北九州市の住宅扶助（生活保護）29000円
○サブリース差益⇒9000円（月額）
※80室のサブリース運用で年間約860万円の収入
事業費と人件費を捻出

提案③孤立防止モデル都市「希望のまち」プロジェクトの推進

1) 北九州市の現状 人口減少……2020年国勢調査 2万1664人人口減少(2・3%)

◆大人が住みたい街1位 ◆子育てしやすい街1位

2) 特定危険指定暴力団工藤会連合本部事務所跡を「希望のまち」へ
孤立を生まないまちづくりの総合プロジェクト

多様なプレーヤー1) NPO法人＋社会福祉法人抱樸 2) 行政 3) 地域 4) 企業

3) 民間の役割―地域づくりの視点・赤の他人が葬儀を出し合う仕組みづくり
家族機能の社会化―抱樸互助会の実践(2013年開始)

4) 北九州市の孤立防止対策として……ポイント「断らない」体制
■SDGs☞誰一人取り残さない

※2008年開始のいのちをつなぐネットワークをアップグレードする

- ①生活困窮者自立支援制度
- ②重層的支援体制整備事業
- ③地域包括ケア

北九州型新地域包括ケアシステム

国は地方創生交付金
で応援を！

希望のまち

PROJECT

北九州市を 「怖いまち」から「希望のまち」へ

特定危険指定暴力団
工藤會の存在



土地購入
(抱樸)
費用



北九州市

福岡県暴力追放
運動推進センター

- ・本部建屋の撤去費
- ・滞納の固定資産税
- ・襲撃事件被害者へ賠償金として支払い

■代表 **奥田知志**（NPO抱樸理事長）

■顧問 **村木厚子**（元厚生労働省事務次官）

■アドバイザー **田島良昭**（最高検察庁参与・長崎南高愛隣会顧問）

■有識者会議議長 **稲月 正**（北九州市立大学教授）

■メンバー 今後地域とご相談

■コミュニティデザイン **山崎 亮**

■応援団（2021年6月現在） **平野啓一郎**（作家）、**茂木健一郎**（脳科学者）、**手塚貴晴・由比**（建築家）、**若松英輔**（評論家・詩人）、**中川五郎**（歌手・作家）、**田ロランディ**（作家）、**三宅民夫**（アナウンサー）、**加藤秀樹**（構想日本代表）、**杉山 春**（ルポライター）、**藤田早苗**（エセックス大学ヒューマンライツ・センターフェロー）、**アサダワタル**（文化活動家）、**清水康之**（NPO法人ライフリンク代表）、**坂上 香**（ドキュメンタリー映画監督）、**西山太吉**（元毎日新聞記者）、**高橋美佐子**（朝日新聞記者）、**せやろがいおじさん**（芸人）、**雨宮 処凛**（活動家）、**内田樹**（思想家）、**釈徹宗**（宗教学者）、**神津里季生**（連合会長）、**三好 修**（三好不動産社長）、**垣迫裕俊**（北九州市社会福祉協議会会長）、**林 眞琴**（検事総長）、**金高雅仁**（元警察庁長官・日本警察協会会長）

おおまかなスケジュール

2021年 12月

借入返済
(1億3000万円)

2022年 6~8月

社会福祉法人
設立申請

2023年 4月

拠点施設建築開始

2024年 3月

拠点施設完成
(開所目標)

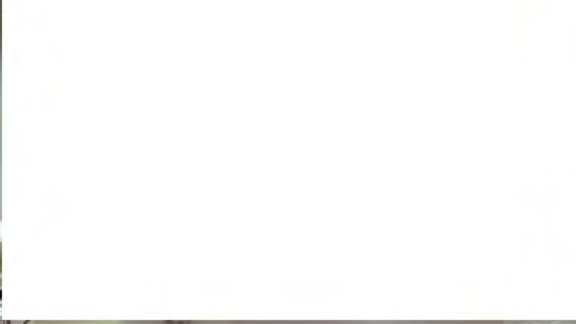


NPO法人抱樸 地域互助会

- ①誰でも入会可 年会費6000円(月額500円)
- ②会員数270名 (内当事者:なかまの会 150名)
- ③世話人10名 見守り活動(定期訪問)
- ④年間行事 バス旅行、花見、新年会、誕生日会
- ⑤サロン 卓球(毎週)、カラオケ(毎週)、かふえ(毎週)
- ⑥看取りと葬儀 互助会葬と偲ぶ会(追悼集会)

⇒大家の安心へ







葬儀は家族機能そのものの**地域共生社会**とは？

赤の他人が葬儀を出し合う社会**家族機能の社会化**

